

科目ナンバリング		U-LAS10 10010 LJ55									
授業科目名 <英訳>		線形代数学（講義・演義）B Linear Algebra with Exercises B				担当者所属 職名・氏名		理学研究科 助教 井上 義也 非常勤講師 出口 直人			
群	自然科学科目群			分野(分類)	数学(基礎)			使用言語	日本語		
旧群	B群	単位数	3単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	水3・金1		配当学年	主として1回生	対象学生	理系向		
[授業の概要・目的]											
線形代数学は、微分積分学と共に現代の科学技術を支える数学の根幹をなす。この科目では、将来の応用に必要な線形代数学の基礎を解説する。 線形代数学（講義・演義）Bでは、ベクトル空間、線形写像などの基礎概念を体系的に学ぶと共に、それらの概念を行列に応用してさらに理解を深める。											
[到達目標]											
ベクトル空間、線形写像などの抽象概念を体系的に理解すること、ならびにそれを通してベクトル、行列の理論的な基礎を固めることを目標とする。その際には、ベクトルや行列等のより進んだ取り扱いに習熟することも目指す。											
[授業計画と内容]											
この科目は講義と演義とが一体として構成されている。 演義は原則として隔週で開講される。演義においては、受講者は問題演習や課題学習に積極的に取り組むことにより、それまでに講義で学んだ事柄の理解を深める。 以下に挙げるのは講義の計画、内容である。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目・小項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。講義の進め方については適宜、指示をして、受講者が予習をできるように十分に配慮する。 以下の内容を、フィードバック回を含め（試験週を除く）全15回にて行う。											
1. 抽象ベクトル空間【5～6週】： 一次結合，一次独立，基底，次元，部分空間，線形写像，核と像 線形写像と行列，基底の変換，直和 2. 計量ベクトル空間【3～4週】： 内積，正規直交基底，直交行列，ユニタリ行列，直交補空間 3. 固有値と行列の対角化【5～6週】： 固有値と固有ベクトル，固有多項式，固有空間 行列の対角化，行列の上三角化，ケーリー・ハミルトンの定理 対称行列の直交行列による対角化 二次形式* エルミート行列のユニタリ行列による対角化*											
アスタリスク * はオプション											
線形代数学（講義・演義）B(2)へ続く↓ ↓ ↓											

線形代数学（講義・演義）B(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

演義担当教員によって平常点（演習への参加状況，課題への取組状況など）から得られた演義成績（30点満点）をもとに，講義担当教員が期末試験を用いて，演義成績以上，100点以下の範囲で評価する。

教員によっては演義以外の平常点（レポート、中間試験などによるもの）を参考にすることもある。詳細は授業中に説明する。

本科目の評価が不合格であった履修者のうち，一定の基準以上の成績の者は再試験を受験できる。再試験の概要は KULASIS で履修者に通知する。なお再試験は3月末に実施予定である。

[教科書]

担当教員毎に指示する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習，復習とともに，演習問題を積極的に解いてみる必要がある。

[その他（オフィスアワー等）]

同一クラスにおいて前期開講の線形代数学（講義・演義）Aとの連続した履修を推奨する。また微分積分学（講義・演義）Bを並行して受講することが望ましい。

[主要授業科目（学部・学科名）]

理学部